



田尻町議会だより

たじりの風

8347

Vol.90

平成24(2012)年
2月1日発行

■発行/大阪府田尻町議会 ■編集/議会広報委員会 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺375番地1 電話 072-466-5000



ご成人おめでとうございます
今年は64名の方が新成人になりました

主な内容

- ★ 一般質問 2 頁
- ★ 委員会報告 6 頁
- ★ 行政視察報告(総務建設常任委員会) 7 頁
- ★ この人にインタビュー 8 頁
- ★ 南部地区議長会議員セミナー参加報告 ... 8 頁

一般質問

- 坂口 実 議員
 1. 府知事選挙の結果を受けて、町長は町政運営にどのように取り組んでいくのか
 2. 『田尻町について一緒に考えましょう!』とは
 3. 旧吉見府営住宅跡地の戸建て分譲計画を一時停止し、再検討を
 4. 自然災害や不測の事態に備え専門的なチームの設置など体制強化の予定は
 5. 津波防災について、田尻町独自の津波被害想定を有識者へ依頼しないのか
- 小川 雄司 議員
 1. 金田前町長が答弁されなかった町職員への「配り物」の有無について
 2. 原町長が出馬に至る経緯について
 3. 総合計画の見直し、政治姿勢について
 4. 行政情報放送を確認できるようすみやかな対応を
 5. 防災行政無線の家庭用個別受信機の導入を
 6. 憲法と教育基本法にそった教育を
- 吉開 育子 議員
 1. 幼・保施設の拡充で幼・保の定員増、広域入所解消、幼稚園3歳児保育復活を求め
 2. 妊婦検診費用助成の拡大を求め
 3. 一般会計から繰り入れし、介護保険料の引き下げを求め
- 大門 久恭 議員
 1. 駅上広場の管理について問う
- 仁部 順行 議員
 1. 町長の所信表明の中にある安心、安全なまちづくりについて(危機管理体制の充実等、防災対策)
- 高木 謙治 議員
 1. 町長選挙の結果を踏まえ、今後の町政に対する取り組みについて
 2. 駅上に広場の確保を
- 伊藤 幸男 議員
 1. 女性の社会進出しやすい環境作りを問う
 2. 0歳から15歳までの一貫教育を図るとは
 3. 企業誘致をどのように進めていくのか
 4. 住みたい、住んでよかったと思える魅力あるまちづくりを問う
 5. 危機管理体制を問う
- 中川 達夫 議員
 1. 企業誘致及び雇用就労について

坂口 実 議員

問 災害や不測に備え、危機管理室の設置を

答 危機管理体制の充実強化に今後取り組んでいく

問 危機管理室の設置や危機管理長を任命する考えはないのか。

例えば、町長直轄に危機管理長を置くことで、災害発生時における第一線での活動や、大阪府暴力団排除条例等の住民・行政の相談や対応にあたるのではないのか。

答 危機管理体制の充実強化は今後取り組んでいかなければならないと十分認識しており、組織・人事体制も今後見直していく。危機管理室の設置や危機管理長の任命もその中で検討していく。



問 町独自の津波被害想定を有識者に依頼を

答 秋以降の国等の方針を受け、見直しをする

問 専門家による町独自の津波被害想定により、防災計画立案に反映でき、防災減災施設の必要性が明確となる。また津波到達シミュレーション映像の作成により、注意喚起・防災教育にも役立ち、防災意識の風化防止にもなる。近隣自治体、特に泉佐野市・泉南市への同様の働きかけは不可欠ではないのか。

答 国の中央防災会議専門調査会において、6月の中間報告で津波避難ビルの効率的な配置や避難路の確保等が必要とされた。9月末には自治体の機能喪失や広域避難所に備え、災害対策法などの見直しが報告され、政府も2年以内に法整備をやるべきとの回答である。

町の具体的な防災計画の立案は、来年度秋以降の国や府の方針を受けた後、広域性や専門性を踏まえ必要に応じて有識者を含め見直しを行う。なお防災意識を風化させないため、注意喚起や防災意識の啓発に対して近隣自治体との調整を含め、積極的に努めていきたい。

小川 雄司 議員

問 清潔・公正・町民本位の町政づくりへの決意は

答 より透明性をめざし、明るい田尻町をつくりたい

問 前町長の一件があり、町内に捜査員が入りました。明るい町政にしなければならないという思いでいっぱいであります。そういう点で清潔・公正・町民本位の町政の実現についてのご決意をお聞かせください。

答 私が出馬させていただいた一番の理由はそこにある。今まで過去にいろいろと恥ずかしい事件もあった。そういうことがないように、より透明性を目指して、明るい田尻町をしっかりとつくっていききたい。



問 行政放送を確認できるフリーダイヤルの設置を

答 検討していく

問 日常的に拡声器からの声が聞こえづらいという声が多数あります。このことを放置せず、フリーダイヤルで行政放送の内容が確認できるなどの改善措置をすみやかに講じるべきです。これは災害に対応して情報伝達手段を検討する以前の問題であり、日常業務の改善です。

答 どう根本的に解決するかということを問われていると思う。フリーダイヤルが一番いいのかどうか、検討していく。



吉開 育子 議員

問 待機児解消・3歳児復活実現の予算をとれ

答 実現する方法を考えている最中

問 保育所の待機児と広域入所の解消、幼稚園3歳児保育は長年の切実な住民要望です。共産党議員団は繰り返しその要望実現を求めてきました。原町長は公約に「保育所の待機児を0にし、幼稚園の3歳児保育の受け入れの環境を作ります。」と掲げています。来年度の保育所入所希望者件数は、定員100人に対し160件です。広域入所もなくしてこそ待機児0となります。来年度予算で幼保施設の拡充のための予算をとり、幼保の定員増と広域入所解消、幼稚園3歳児保育復活を求める。

答 3歳児保育と待機児の解消については絶対に実現していききたいと思っている。0歳から15歳を一貫教育と言ってきた中で3歳児を省くということはできない。そのための方法を議員が言っていることをふまえて考えている最中である。

問 妊産婦検診費用の拡大を求め

答 当初予算に入れられたらと思っている

問 田尻町の妊産婦検診費用助成額は53,390円です。大阪府内では能勢町が112,450円とトップで、田尻町はその半額以下です。女性町長として助成額を府内トップレベルに拡大し、安心して子どもを産み育てられる町にしたい。

答 田尻町の場合は結構2人目、3人目を産んでおられる方が多い。支えるのは当然なことだと思っている。勉強して当初予算に入れられたらと思っている。



問 駅上広場の徹底管理を

答 時間を守ってもらうようお願いしている

問 駅上広場の掲示板に「駅上広場を専用して利用されるみなさまへ」と専用使用の時間等が明記されているが、町民さんから使用時間を守っていないと聞いてい

る。再三、教育委員会には連絡しているのに一向に改善の気配がない。使用者にどのように指導しているのか。

答 教育委員会としては、指導者が来て指導を始めてからが専用使用の時間と考えており、時間を守ってもらうようお願いしている。広場としての使用と専用使用との境を明確にする事が難しい施設ではあるが、引き続き専用して利用される方々には時間を守るよう指導していきたいと考えている。



問 安心安全なまちづくりの実現を

答 必要などころには予算をつけていく

問 東日本大震災では想定以上の大津波が発生し、多くの人々が犠牲になりました。本町は大阪湾の中に位置し、昔から津波等の被害も少なく、安全で安心して暮らせる町と確信をしていました。しかしこの先、30年以内には東海、東南海、南海地震のいずれか、また最悪の場合は3連動で発生すると言われていています。これらの地震により予想以上の津波が発生すれば、本町には身近なところに安心して避難できる場所が無いのが現状です。

地震や津波から身を守るには、どこにどんな危険、どこに避難場所があるのか、正しい知識と心構えを身につけておくことが必要です。町や地区会も防災意識を高めるため、防災訓練等を行なっています。しかし、その避難場所が公民館や中学校のグラウンドでは避難場所どころか二次災害をも引き起こす可能性があります。このようなことを真剣に取り組み、防災タワーや高台、避難誘導路等を構築する自治体がふえてきています。町長が掲

げるだれもが安心して暮らせるまちづくりを実現するには最大限の予算をつけ、早急に具体策を講ずるべきである。

答 町民の命と財産を守るということは私の一番の大きな使命だと思っている。必要などころには必要な予算を付けていき、その上で議会と共によりしっかり考えていく。



伊藤 幸男 議員

問 0歳から15歳までの一貫教育を実現せよ

答 3歳児の受け入れを復活し、一貫教育をすすめたい

問 選挙公報には、保育所の待機児童を0にし、幼稚園の3歳児の受け入れ環境をつくとあるが、具体的にどのようにするのか。

また、小学校から中学校の一貫教育を推進し、基礎学習を徹底するとあるが、進め方はどう考えているのか。

答 待機児童0、幼稚園3歳児の受け入れの復活を実現させたい。そのための方法をさまざまな視点から検討を重ね、その内容を早くお示しできるよう努力したい。

また、教育重点政策として、平成22年度から小中一貫教育の推進をしており、9年間の中で1人1人の子どもたちが確かな学力をつけるために、小学校から中学校への段差を低く出来るよう取り組んでいる。そのほか放課後学習や家庭学習の活性化、また少人数指導等で、基礎、基本の学力の定着をはかっている。今この取組みに対してもう少し徹底し、地道に継続し、子どもたちのさらなる学力向上を目指す。



中川 達夫 議員

問 雇用就労を問う

答 事業所訪問等により雇用先の確保に努めていきたい

問 現在の地域就労支援事業の活動状況は。また、市町村が実施する事業ということで多様な就労困難者に対し、チャンスをつくれているのか。

答 現状はふれ愛センターに相談室を設置し、相談員の資質の向上に努めている。就労が困難な場合の打開策として、事業所訪問などで採用努力をしている。採用に際しては、町内の方々を優先するようお願いし、雇用先の確保に努めている。また、就労困難者を対象として、就労支援講座などでスキルアップしていきたいと考えている。



委員会報告

総務建設常任委員会

委員長 中川 達夫

総務建設常任委員会に付託されました案件の審査結果、並びに経過報告。(12月7日開催)

◎議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例

(障害者自立支援法の改正による) 【全会一致で可決】

問 実質的に議員にかかわる内容変更はあるのか。

答 今回は障害者自立支援法の改正に伴って条例の条項にずれが生じたため、それをただす改正である。内容については変更ない。

◎田尻町消防団員等公務災害補償条例一部改正の件

(障害者自立支援法の改正による) 【全会一致で可決】

◎平成23年度田尻町一般会計補正予算(第4号)の件

(496万円5千円の増額) 【全会一致で可決】

問 町営住宅跡地の売払いについて、一般競争入札結果は入札結果調書により公開されているが、入札参加者の名称を公開していないのはなぜか。

答 今回のような土地売却の一般競争入札は個人の方も参加されるので公開していない。



◎平成23年度田尻町下水道事業特別会計補正予算(第1号)の件

(18万6千円の増額) 【全会一致で可決】

◎平成23年度田尻町水道事業会計補正予算(第2号)の件

(30万6千円の減額) 【全会一致で可決】

文教厚生常任委員会

委員長 高木 謙治

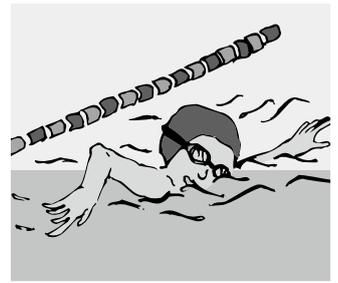
文教厚生常任委員会に付託されました案件の審査結果、並びに経過報告。(12月8日開催)

◎田尻町多目的グラウンド及び田尻町営プール指定管理者指定の件

(指定管理者の指定) 【賛成3、反対1で可決】

問 夏休みの間、町営プールは午後から一般開放し、午前中は水泳教室が開催されていたが、指定管理になった場合、これらの形態はどうなるのか。

答 水泳連盟主催の水泳教室はこれまでどおり実施される。さらに指定管理者の提案では、未就学児を対象とした水泳教室や、一般開放についてもこれまでより延長して8月末まで実施する計画となっている。



反対討論 泉南市の学校プール死亡事故の教訓から、監視員の安定的な確保こそが安全管理の大前提である。監視員の賃金を引き上げ、町が直接管理運営することを求める。

賛成討論 この指定管理者はプールの安全管理面でノウハウを持っている。また水泳教室やプール開場日が増える計画もあり、住民サービスの向上が図れる。

◎田尻町税条例一部改正の件

(震災復興財源確保の為の住民税等の引き上げ)

【全会一致で可決】

問 今回たばこ税の税率が引き上げられることによって本町の税収はふえるのか。

答 本町の場合、既にたばこ税に係る課税定額を超えているため影響はない。ただし、平成26年度以降は、課税定額の算定時に調整される可能性があるため、その場合は若干の増収が見込まれる。

◎平成23年度田尻町一般会計補正予算(第4号)の件

(496万円5千円の増額) 【賛成3、反対1で可決】

問 小学校のバリアフリー工事内容は。

答 管理棟の入口横、2階体育館の入口及び新館中央入口のスロープ設置となっている。

反対討論 多目的グラウンドと町営プールの指定管理者指定管理業務の債務負担行為補正が入っているため。

◎平成23年度田尻町国民健康保険特別会計(事業勘定)

補正予算(第2号)の件

(271万5千円の増額) 【全会一致で可決】

◎平成23年度田尻町後期高齢者医療特別会計補正予算

(第3号)の件

(4万1千円の減額) 【全会一致で可決】

◎平成23年度田尻町介護保険特別会計補正予算(第3号)の件

(33万3千円の増額)

【全会一致で可決】

問 居宅介護サービスの利用者はどのくらいふえているのか。

答 主にショートステイの利用がふえており、上半期の計画値に対して、利用者が16.7%、利用日数が67.5%増加している。

行政視察報告

総務建設常任委員会

副委員長 坂口 実

総務建設常任委員会は、昨年10月26日に被災地視察に宮城県名取市^{ゆりあげ}関上地区と、研修として日本自治創造学会仙台大会に参加しました。

《被災地視察～宮城県名取市^{ゆりあげ}関上地区》

名取市^{ゆりあげ}関上地区は、宮城県仙南地域沿岸部に位置し、名取川沿いに魚市場があり、公民館・中学校・小学校が配置されており、本町と似た地形である。津波による想定外の甚大な被害を実際の現地で見ることができた。

昨年3月11日に発生した「東日本大震災」は、歴史上経験のない想定外の大被害をもたらした。多くの人命や財産を失い、いまだ進まぬ復興や生活再建に困窮されているのが、現状の姿である。しかし、未曾有の危機は克服できる。それが日本人の底力であると確信してやまない。

《仙台大会研修～

大震災を越えて～地域の復興と自治の再生～》

被災地の現地報告として、佐藤仁宮城県南三陸町長と山本正徳岩手県宮古市長の講演が観衆の注目を集めた。

特に南三陸町は、田尻町社会福祉協議会が昨年7月7日から10日にかけて行なった被災地支援ボランティアで沢

山の参加をいただき訪れた地でもあり、個人的には興味深かった。

また、石川幹子東京大学教授から宮城県仙南広域地域の復興計画の現状報告があった。

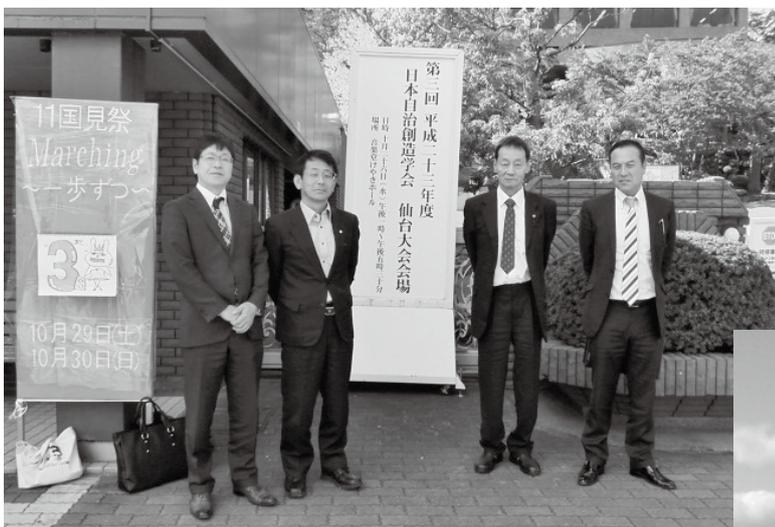
太平洋に面する名取市から山元町までの4市町は地形が概ね似ており、多様な復興計画がある。計画では、この一帯は環太平洋の渡り鳥のルートであることから、海岸線から貞山掘を超えた辺りまでに、生物多様性を重視した国際社会に誇る「千年希望の杜ナショナルパーク」をつくり、流域自然共生都市とする復興ビジョンが報告された。最終的には、土地に刻まれた歴史を読み込み、貞山掘を再生し、松島市や石巻市まで繋ぐ計画となっている。

その中でも興味深かった二つの事例として、岩沼市と亶理町の復興計画が詳細に報告された。両市町は阿武隈川を挟み南北にわかれている。しかし、亶理町の復興計画が進まない。その原因として考えられるものは、地域コミュニティの繋がりや絆が岩沼市のそれより劣ると講評された。

《最後に》

秋以降から、国・府の方針が示された後に田尻町の防災計画が再考される。議会においても今期より災害対策特別委員会を毎月開催し、議論を交わしています。あらゆる世代からの視点による広範囲な防災に対するご意見を議員にお寄せください。

情報や経過を公開共有し住民本位の立案が絆を深め、危機回避や防止につながる。いつかは田尻町にも災害はやってくるとの認識は風化させてはならない。



この人にインタビュー

田尻町婦人会会長
藤浪晴子さん



長年にわたり、田尻町婦人会の会長として活動されている藤浪晴子さんにお話を聞きました。

Q 婦人会に入ったきっかけは？

A 昭和53年に岸和田から田尻町にきました。

翌54年にご近所の方に「田尻町の地域の方々と知り合いになれるから」と誘われて婦人会に入ったのがきっかけです。

Q 会長は何年されていますか？

A 平成6年から会長をしています。平成17年～20年の3年間は退きましたが、また21年から再度会長になり、会長歴は15年で現在に至ります。

Q 一番印象に残っている活動は？

A 給食サービスです。年1回、長友会のみなさんに給食を作って食べてもらっていますが、「今度12月には呼んでくれるんよね」「ありがとう、おいしかったよ」と声をかけていただくので達成感とやりがいがあります。

Q 原町長への要望はありますか？

A ①町長の選挙公報にあった「女性の社会進出しやすい環境づくり」を是非すすめてください。

②定期的に婦人会との懇談会の開催をお願いします。

Q 婦人会より町民の皆さんへアピールしたいことは？

A 社会教育団体である婦人会は、相互の親睦と連携を保ち「健康で明るく住みよい地域社会の実現」をめざして活動を推進し、婦人の社会的地位の向上につとめると目的を定め、活動しています。

現在、会員の平均年齢が60歳半ばで、後継者や会員不足という問題があります。長年、地域や行政にも協力・貢献してきた活動をつなげていきたいので、若年層の方たちの婦人会へのご参加をお願いしたいです。

藤浪さんは、田尻町婦人会が結成された昭和29年以来の活動の記録集をお持ちで、貴重な写真集も見せていただきました。

その中からご了承を得て、写真を1枚お借りし、掲載させていただきました。

昭和34年6月11日交通安全週間協力の様子です。



南部地区議長会議員セミナー参加報告

議会議長 東 小夜子

1月6日(金)田尻町ふれ愛センターにおいて、南部地区議長会(忠岡町、熊取町、田尻町、岬町の各議会議長をもって組織)の主催で議員セミナーが開催され、本町議会では全議員が参加しました。

今年度の議員セミナーは、巨大災害の第一人者で関西大学理事・社会安全学部長の河田恵昭先生を講師に迎え、「南海地震・津波対策とその見直し」というテーマでお話をいただきました。

河田先生のお話では、海溝型地震は揺れる時間が長く、東海・東南海・南海地震が3連動で起こった場合は、立っていることができない状態が3分以上(南海地震単独の場合、1分以上)続くとのこと。この地震により発生した津波は、約55分後に田尻町に到達すること。津波が大阪湾に入ってきた場合、湾内で反射し6時間は津波が治まらないことから、避難した場所から動かない

ことなど、津波から身を守る方法を教えていただきました。その他にも、先生の研究成果により算出された津波予測など終始興味深い内容で、大変有意義な講演でありました。

津波から身を守るには、まず私たち一人一人が生きることにもっと食欲にならなければいけないと思います。“その「生きたい」という意欲を「逃げる」という行動で実現していく”その意識改革が必要ではないでしょうか。

本町議会としては、現在月1回のペースで「災害対策特別委員会」を開催しておりますが、この議員セミナーで得た地震災害の正しい知識を今後の田尻町の災害対策に役立てていきたいと考えています。

